

## 活水女子大学卒業式式辞

学長 広瀬 訓

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。列席くださいました保護者の皆様、お子様の卒業、お祝い申し上げます。また、これまでの活水学院に対する様々なご支援、ご協力に対し、心から御礼申し上げます。

思い起こせば、今日卒業を迎える皆さんの大学生活は、コロナ感染に振り回された4年間だったという他はありません。今日の卒業式も、残念なことに来賓の列席はなく、また、参加できるご家族の人数にも制限を設けさせていただいています。厳しい制限の下での入学式、オンライン授業、留学や研修の機会も制限され、クラブ活動や学校行事も思うようにできず、悔しい思いをした学生も多かったのではないかと思います。いや、「こんなはずじゃなかった」と思わない学生はいないかもしれません。私たち、教員、職員も、5年前にそんな事態を想定していた人は皆無だったのではないのでしょうか。

残念ながら私たち人間は、過去を振り返ることはできても、未来を知ることはできません。明日、私たちに何が起きるのか、確信を持って語ることはできません。今回のコロナ感染の世界的な拡大は、あらためて私たちにそのことを教えてくれました。もちろん、私も、皆さんも、そして世界中の多くの人々が、今でも「もしコロナさえなかったら」と思っていることはたくさんあると思います。しかし、同時に、コロナ以前には想像もしていなかったような経験もたくさんしました。今では、インターネットを通して、オンラインで会議や授業をすることは、当たり前のことになっています。オンラインであれば、距離は関係ありません。わざわざ移動することなく、遠隔地にいる人や海外の人と議論をしたり、意見交換をすることができるようになりました。急に海外の人と話をしたいときに、即座に呼び出し、話をすることも問題ありません。実は技術的には、コロナよりも前から、こんなことは技術的には可能であったのです。それでもなかなか普及しなかったものが、コロナ感染の拡大をきっかけに、私たちの日常に定着したのです。これからは、仕事をしてゆくうえでも、あるいは教育においても、オンラインの活用は当たり前になってゆくことでしょう。私たちの生活も、また私たちを取り巻く社会も、コロナ前とは違ったものになってゆくことは避けられません。

しかし、すでに述べたように、私たちは過去からしか学ぶことはできません。卒業生の皆さんは、すでに何度も本学の歴史や創設者であるエリザベス・ラッセル先生について、様々な話を聞いてきたはずですが、それらは「昔の話」であって、オンライン授業が当たり前になった時代には役に立たない話なのではないでしょうか。それは違います。144年前、ラッセル先生が

この地で初めての学生を迎えた時を想像してみてください。ラッセル先生の前に広がっていたのは、すべてが「未知」の経験だったはずです。そして、何があろうとも、簡単にアメリカに帰ることなど不可能だったに違いありません。それからの40年、ラッセル先生は、いつも、多くの問題や困難に立ち向かう日々を過ごしたことでしょう。それでも、ひたすらに、自分の信仰と信念に基づき、歩み続けたその姿勢こそが、活水の精神にほかならないと私は思います。

もちろん、私は、卒業生一人一人が、幸せな、恵まれた人生を歩むことを心から願っています。しかし、同時に、何の困難も、挫折も経験しない人生などありえないことも知っています。私たちは、生きている限り、思いもかけない問題や困難に直面することになるということを、身をもって経験したばかりです。これからも、過去の経験からだけでは解決できないような困難に出会うことがあっても不思議ではありません。皆さんが、大学で学んだ知識や技術では解決できないような問題に取り組まなければならないこともきっとあるだろうと思います。そういう時にこそ、「活水の精神」を思い出してください。

ラッセル先生をはじめとして、活水の諸先輩方の辿った道筋を振り返る時、そこに脈々と息づく精神は、まさにパイオニア、先駆者であることを恐れない精神です。自らの足で、未踏の地へと赴くことを厭わない勇気です。活水の卒業生を紹介する時に、どれだけ「日本で初めて」という言葉が使われてきたことでしょうか。しかし、これは必ずしも社会的に大きな功績を残すということだけではありません。大きなことでも、小さなことでも、自分が正しいと思う方向へ、歩みを止めないということです。聖書に「ごく小さなことに忠実な者は、大きな事にも忠実である」(ルカ 16:10)とある通り、小さなこと、身近なことから、勇気を持って取り組むという姿勢こそが大切なのです。

今、私たちの周囲を見渡せば、コロナのような感染症の問題だけでなく、紛争、地球温暖化、環境、貧困、格差等、様々な問題が山積し、世界も、日本も不透明な時代に入りつつあるのではないかという不安があります。その不安は、私たち一人一人の日常生活にも様々な影を落としつつあるかもしれません。しかし、人間の歴史は、多くの不安や困難を克服しながら進んできた歴史でもあります。今、必要とされているのは、そのような不安や困難に立ち向かう勇気ではないでしょうか。私は、皆さん一人一人が、自分にとっての先駆者であることを期待します。私たちの力の源である、主なる神様は、「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる」(イザヤ書 41:10)と言ってくださっています。皆さんが、いつまでも神様から与えられる活ける水に潤され、人生のチャレンジャーであり続けることをお祈りし、学長式辞といたします。